

# 平成20年の福岡県鋳工業指数の動向

## 1 概況

(1) 業種別動向（全18業種・主要業種の動向はp.5以降を、全業種の推移はp.14以降を参照）

### ① 生産

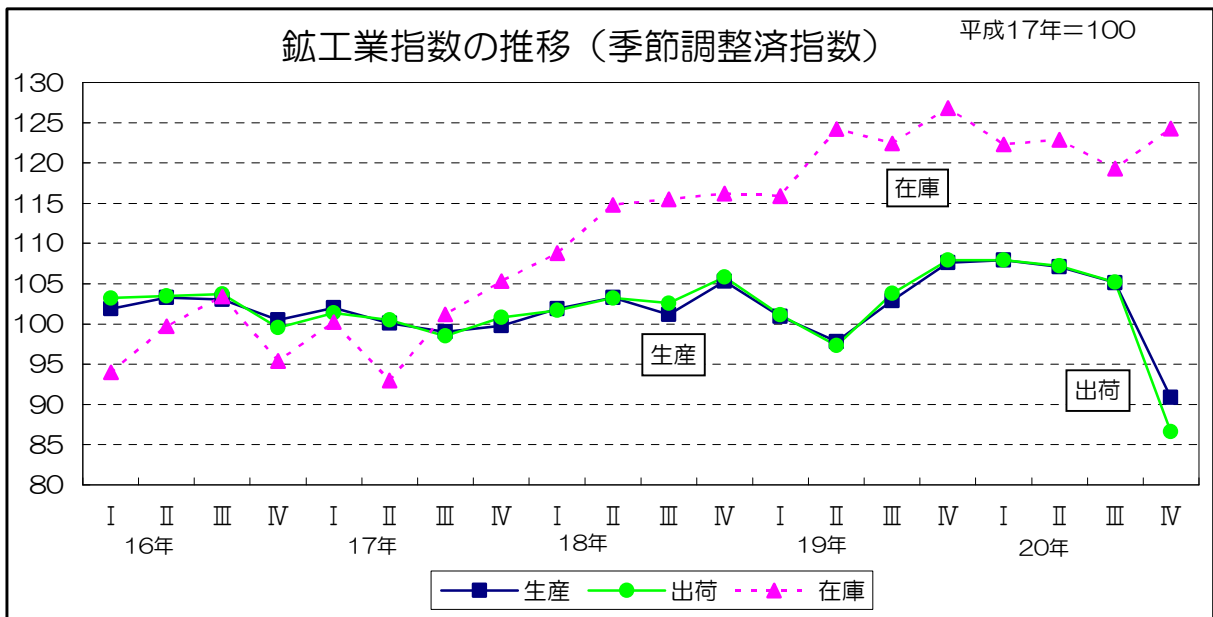
20年の生産指数は102.7で、前年比0.3%増と2年ぶりの上昇となった。  
業種別では、電子部品・デバイス工業、鉄鋼業など12業種が下落したものの、  
一般機械工業、金属製品工業など6業種が上昇した。

### ② 出荷

20年の出荷指数は101.6で、同▲1.1%減と2年連続の下落となった。  
業種別では、一般機械工業、金属製品工業など7業種が上昇したものの、  
電子部品・デバイス工業、鉄鋼業など10業種が下落した。

### ③ 在庫

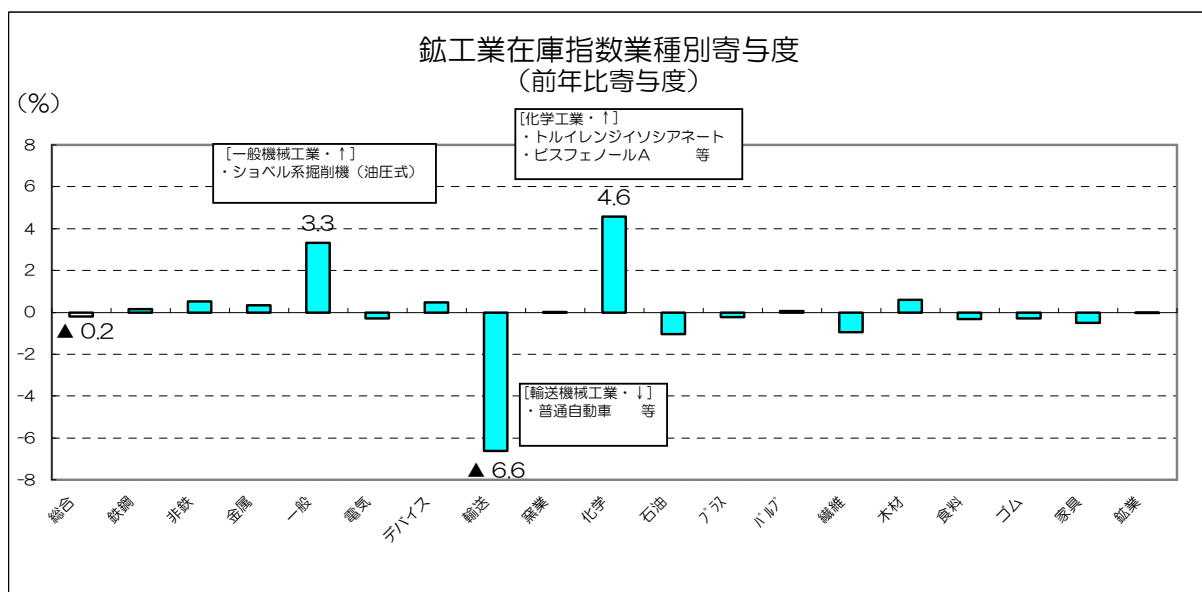
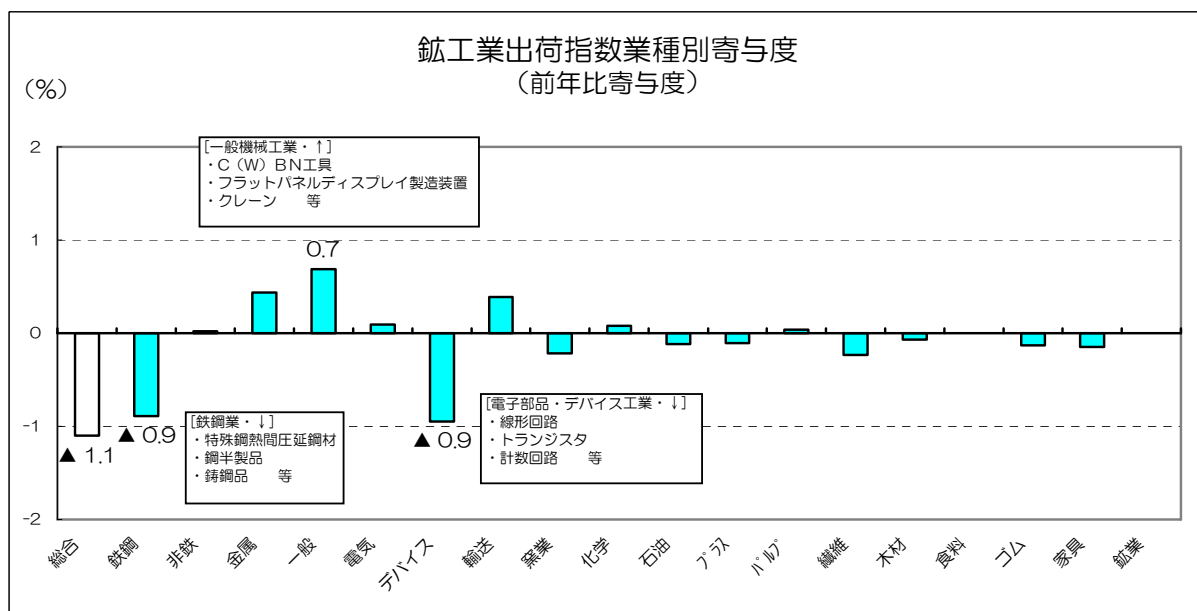
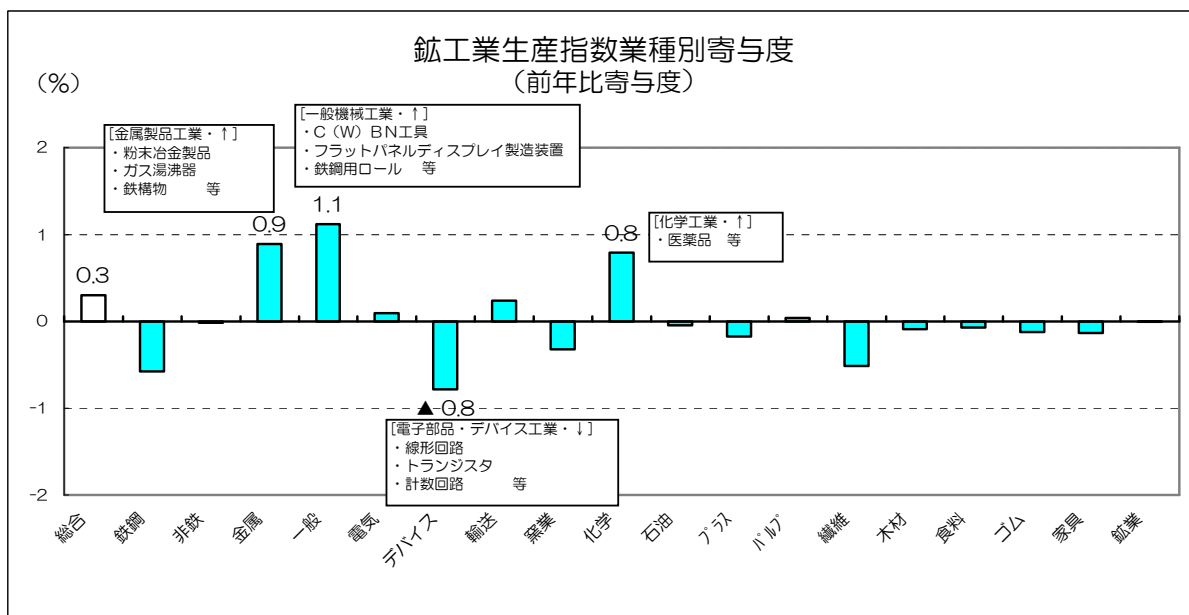
20年の在庫指数は122.1で、同▲0.2%減と4年ぶりの下落となった。  
業種別では、化学工業、一般機械工業など9業種が上昇したものの、  
輸送機械工業、石油・石炭製品工業など9業種が下落した。



鋳工業指数の推移（年は原指数、四半期は季節調整済指数）

平成17年=100

	16年	17年	18年	19年	20年	20年			
						I	II	III	IV
生産	102.4	100.0	102.6	102.4	102.7	107.9	107.1	105.1	90.9
前期(年)比	3.0	▲2.3	2.6	▲0.2	0.3	0.3	▲0.7	▲1.9	▲13.5
前年同期比	—	—	—	—	—	7.4	8.6	1.9	▲14.9
出荷	102.7	100.0	103.0	102.7	101.6	107.9	107.2	105.2	86.6
前期(年)比	3.1	▲2.6	3.0	▲0.3	▲1.1	0.0	▲0.6	▲1.9	▲17.7
前年同期比	—	—	—	—	—	7.0	9.1	1.7	▲19.5
在庫	98.5	100.0	113.8	122.3	122.1	122.3	122.9	119.3	124.3
前期(年)比	▲6.3	1.5	13.8	7.5	▲0.2	▲3.5	0.5	▲2.9	4.2
前年同期比	—	—	—	—	—	5.8	▲0.7	▲2.8	▲2.1



※枠内の品目については、各業種の上昇または下落に寄与した主な品目を掲載

(2) 財別動向（生産・在庫の詳細はp.42以降を参照）

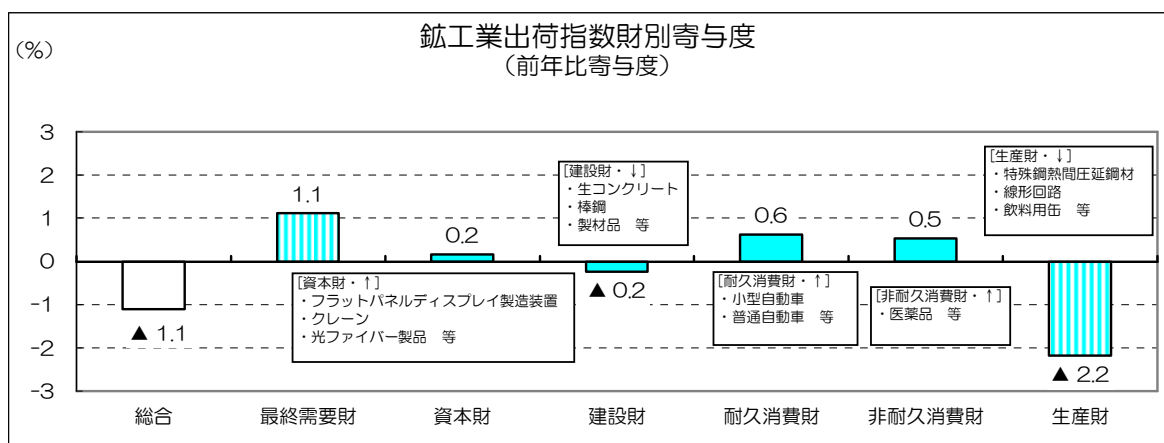
財別（＝用途別）の出荷指数を用いて、耐久消費財、資本財などの財の需要動向や、財の動きを通して県内最終需要の動きを把握することができる。

- 総合出荷指数は101.6で、前年比▲1.1%減と2年連続の下落となった。最終需要財は同1.8%増と2年ぶりの上昇となった。生産財は同▲5.7%減と3年ぶりの下落となった。
- 最終需要財のうち、資本財は、フラットパネルディスプレイ製造装置、クレーン、光ファイバー製品などが上昇したため同1.4%増で6年連続の上昇となった。建設財は、生コンクリート、棒鋼、製材品などが下落したため、同▲3.1%減で7年連続の下落となった。
- また、耐久消費財は、小型乗用車、普通乗用車などが上昇したため、同2.2%増で3年連続の上昇となった。非耐久消費財は、医薬品などが上昇したため同3.7%増で2年ぶりの上昇となった。

鉱工業出荷指数（財別）の推移（年は原指数、四半期は季節調整済指数）

平成17年＝100

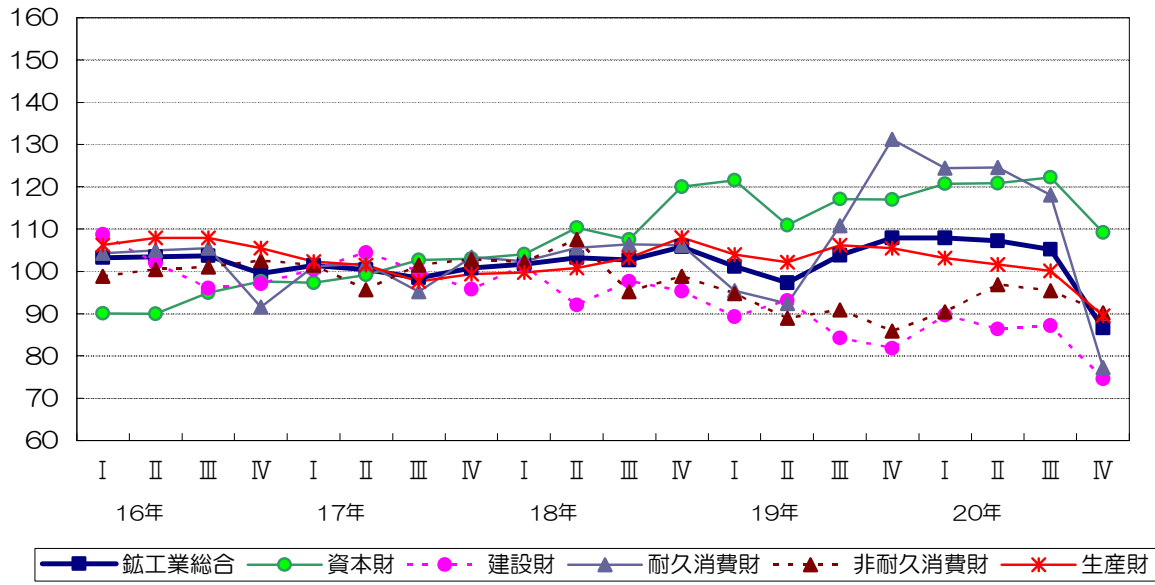
	16年	17年	18年	19年	20年	I	II	III	IV
	鉱工業総合	102.7	100.0	103.0	102.7	101.6	107.9	107.2	105.2
前期（年）比	3.1	▲2.6	3.0	▲0.3	▲1.1	0.0	▲0.6	▲1.9	▲17.7
前年同期比	—	—	—	—	—	7.0	9.1	1.7	▲19.5
<b>最終需要財</b>	100.1	100.0	103.2	101.6	103.4	111.0	111.8	106.1	85.6
前期（年）比	▲0.5	▲0.1	3.2	▲1.6	1.8	1.4	0.7	▲5.1	▲19.3
前年同期比	—	—	—	—	—	11.7	16.2	5.7	▲22.0
<b>投資財</b>	97.1	100.0	104.0	102.9	102.5	106.9	105.0	104.9	93.2
前期（年）比	▲0.8	3.0	4.0	▲1.1	▲0.4	6.8	▲1.8	▲0.1	▲11.2
前年同期比	—	—	—	—	—	1.1	2.5	3.6	▲8.5
<b>資本財</b>	93.2	100.0	109.9	116.8	118.4	120.7	120.8	122.2	109.2
前期（年）比	15.2	7.3	9.9	6.3	1.4	3.2	0.1	1.2	▲10.6
前年同期比	—	—	—	—	—	1.6	7.9	4.2	▲7.6
<b>建設財</b>	101.5	100.0	97.2	87.0	84.3	89.6	86.3	87.2	74.6
前期（年）比	▲13.5	▲1.5	▲2.8	▲10.5	▲3.1	9.5	▲3.7	1.0	▲14.4
前年同期比	—	—	—	—	—	0.1	▲4.9	3.0	▲10.1
<b>消費財</b>	101.5	100.0	102.8	101.0	103.8	112.4	114.6	107.4	82.4
前期（年）比	▲0.4	▲1.5	2.8	▲1.8	2.8	▲1.1	2.0	▲6.3	▲23.3
前年同期比	—	—	—	—	—	17.7	23.0	6.7	▲27.3
<b>耐久消費財</b>	101.8	100.0	104.4	107.9	110.3	124.4	124.6	118.1	77.2
前期（年）比	▲1.2	▲1.8	4.4	3.4	2.2	▲5.2	0.2	▲5.2	▲34.6
前年同期比	—	—	—	—	—	29.8	31.3	7.3	▲39.8
<b>非耐久消費財</b>	101.0	100.0	100.4	90.0	93.3	90.4	96.8	95.4	90.2
前期（年）比	0.8	▲1.0	0.4	▲10.4	3.7	5.2	7.1	▲1.4	▲5.5
前年同期比	—	—	—	—	—	▲4.5	9.8	5.7	3.5
<b>生産財</b>	107.1	100.0	102.6	104.5	98.5	103.1	101.6	100.1	89.5
前期（年）比	9.3	▲6.6	2.6	1.9	▲5.7	▲2.3	▲1.5	▲1.5	▲10.6
前年同期比	—	—	—	—	—	▲1.1	▲1.9	▲5.0	▲14.9



※枠内の品目については、財別の上昇または下落に寄与した主な品目を掲載

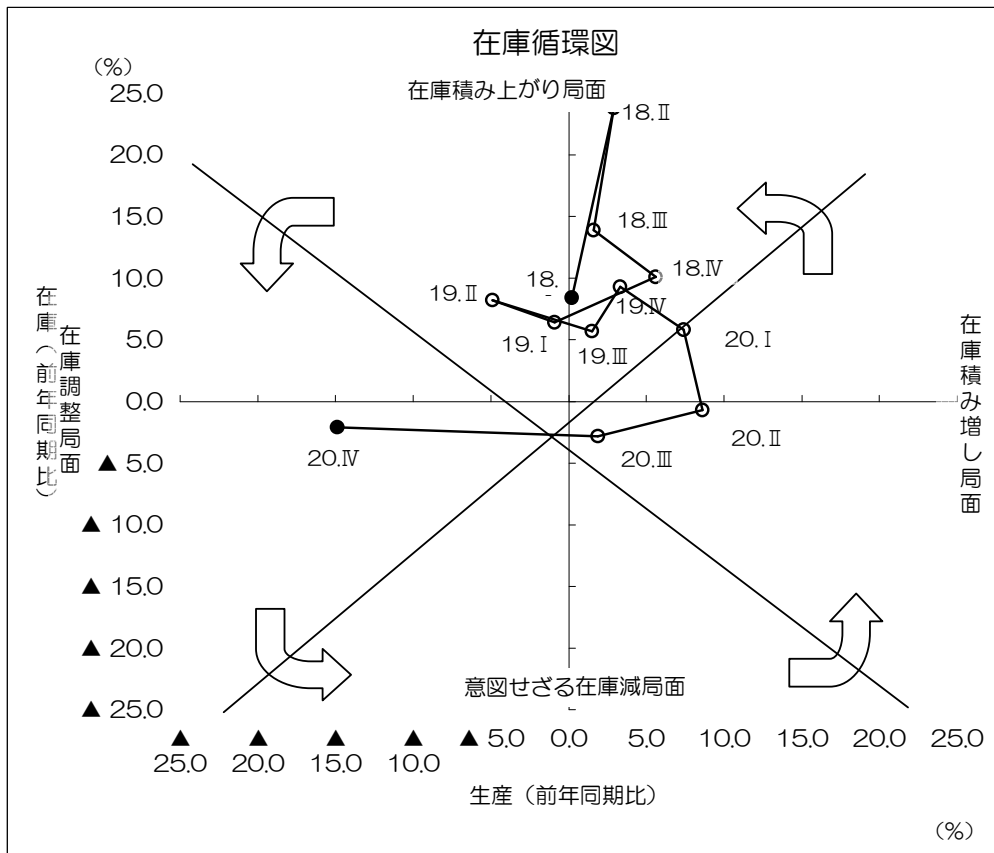
鉱工業出荷指数（財別）の推移（季節調整済指数）

平成17年=100



(3) 在庫循環図

在庫循環状況を見ると、20年は「在庫積み増し局面」から「在庫調整局面」へ移行している。



※在庫循環図の見方

横軸に生産、縦軸に在庫の前年同月（期）比をとり、生産と在庫の関係から現状を判断する。一般的に、右斜め上45°より下にあるときは景気の回復期で、上にあるときは後退期と考えられる。